

ホールが公営のものが多いのに対し、わらび劇場は民営で行われている。劇場だけでなく、温泉宿泊施設やレストラなども揃え、地域の文化交流の場となると共に、観光地としても発展している。多くホールが本来の役割を果たせていない日本で、本来の役割に加え、観光地としても大きく発展した特異性に注目した。

たざわこ芸術村の今の運営形態は、事前構想があったわけではなく、必要に迫られて整えたという背景がある。そのため現在は各施設がほぼ独立して活動を行っている。しかし、どの施設も積極的に活動し、地元だけでなく、全国に

向けて文化発信を行っている。

地域の文化振興に成功しているホールには具体的な事前構想、住民への柔軟な対応、積極的な働きかけという共通点がある。たざわこ芸術村は民営であり、専用劇団を持っているという点で公営のホールとは異なる点も多い。しかし、先の特徴を十分に満たしていた。一般のホールとは異なる点を独自の特徴とし、それが観光地までに発展した大きな要因であった。他に例を見ない、新たな体系の一つとして新しい可能性を示している。

街の魅力：吉祥寺を事例に

高橋 彩

街にも流行がある時代である。

雑誌の街特集の常連であり、東京都内でも有数の繁華街である街の1つに「吉祥寺」がある。「吉祥寺」はかつて、新宿以西で最大の商業地であったが、近年その人気にかけりも感じられるが、果たしてそうなのだろうか。時代に流されることなく、私たちを魅了し続ける街はないのだろうか。もしあるとすれば、その街にはどのような魅力があるのだろうかと考え、調査を始めた。

雑誌記事の分析や、まちづくりに携わる方々

への聞き取り調査を行って、吉祥寺の発展から現状までを調査したところ、発展にはいくつかの要因があり、吉祥寺の商圈は予想より狭く、街の性格に変化も見られることがわかった。

調査を通して見えてきた吉祥寺の街の魅力は、自然環境から繁華街まであらゆる要素がコンパクトな空間に収まっている多様性とそれらを支える行政、商業者、住民の一体となった取り組みであり、それこそが時代に流されて消え行くことなく私たちを魅了し続ける街にとって必要なものである。

福岡市中央区天神エリアにおけるカフェの研究

徳永 祐子

本論文は、喫茶店・カフェの歴史、2000年カフェブーム、地方中核都市福岡市中央区天神エリアのカフェの特徴を調べることによって、カフェが持つ魅力、福岡におけるカフェの役割を調べたものである。

我が国における喫茶店第1号は明治21年に上野に開店した「可否茶館」だと言われている。以来喫茶店は都市のたまり場として機能している。

1990年代に入ると低価格コーヒーチェーンが主流となり、昔ながらの喫茶店の時代は崩壊し

た。シアトル系コーヒーショップが登場すると2000年カフェブームの下地が作られた。

2000年カフェブームとは今まで流行したカフェとは異なる東京（日本）独自のスタイルを持ったカフェが増えたことを指す。本論文ではカフェを①喫茶店②コーヒーショップ③ヨーロッパアンカフェ④食堂カフェ⑤部屋カフェに分類し、福岡市中央区天神エリアの大名地区と今泉地区のカフェを比較した。するとそれぞれの地区の発展の様子によってカフェの分布に違いが見られた。